

◆◆関東地方整備局の動き◆◆

1. 中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故関連情報について

関東地方整備局は、中央自動車道笹子トンネルで発生した天井板落下事故により、中日本高速道路（株）より支援依頼があったため、その他の災害等対策本部を設置し、応援体制に入っておりますので、お知らせします。

中央道（大月 JCT～勝沼 IC 間）通行止めに伴う迂回路等情報を提供しております。

（Twitter（ツイッター）においても迂回路情報を発信しています。）

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/saigai/kyoku_dis00000070.html

甲府河川国道事務所 迂回路情報 公式ツイッターは、こちらをクリックしてください。

https://twitter.com/mlit_335kofu/

2. 燃料運搬・貯蔵の支援に関する協定について追加募集の公告

関東地方整備局は、災害時に国民の生命・財産を守るために必要な燃料運搬・貯蔵にご協力頂ける事業者を追加募集しますのでお知らせします。

平成 24 年 7 月 23 日に公告いたしました「災害時における関東地方整備局管内の燃料運搬・貯蔵の支援に関する協定」締結の公募において 2 社と協定の締結を行いました。さらなる体制の強化を目的に事業者を追加募集いたします。また、業務に「燃料運搬に必要な車両（積載容量 4 キロリットル以下）の貸付による提供」を追加しております。

本公告による協定の目的は、東日本大震災において燃料供給体制が混乱し、災害復旧に支障が生じた経緯を受け、今後発生が予想される首都直下地震等の大規模地震の発生時に、国土交通省関東地方整備局管内において必要な燃料の運搬、貯蔵支援を行い、円滑な災害復旧に資することとしています。

ご応募頂いたのち、公平性等に留意するとともに、災害発生時に即時対応可能な地理的条件を有し、また一定の設備規模を有する事業者を選定し、協定を締結いたします。

【名称】災害時における関東地方整備局管内の燃料運搬・貯蔵の支援に関する協定

【協定区間】関東地方整備局管内

【協定期間】協定締結から平成 25 年 3 月 31 日

【募集公告日】平成 24 年 12 月 13 日（木）

【応募期間】平成 24 年 12 月 13 日～平成 25 年 1 月 25 日 18 時 00 分まで

【書類配布】関東地方整備局企画部施工企画課もしくは同局公式ウェブサイト

（URL : <http://www.ktr.mlit.go.jp/bousai/index.html>）

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kikaku_00000088.html

3. 第7回技術講演会・出展技術発表会を開催します。

建設技術者を主な対象に、建設技術や建設技術の開発・活用の取り組みについて情報を発信し、公共工事に係る土木技術者の知識の習得及び土木技術の向上を目的として、「第7回技術講演会・出展技術発表会」を開催いたします。

日時：平成25年1月16日(水)、17日(木) 13時00分～17時00分頃(受付12時30分～)

場所：さいたま新都心合同庁舎1号館 2階講堂

埼玉県さいたま市中央区新都心2-1

内容：技術講演会

【1日目】「CIMが目指す理想を実現するために」

講演者：一般財団法人 日本建設情報総合センター 建設情報研究所

研究開発部 建設ICT推進グループ長 元永秀氏

【2日目】「河川堤防・道路盛土の耐震性向上の考え方」

講演者：独立行政法人 土木研究所地質・地盤研究グループ

土質・振動チーム 上席研究員 佐々木哲也氏

出展技術発表会

テーマ：橋梁関連、基礎工、コンクリート構造物関連、地中連続壁、擁壁工、護岸工、側溝工、その他

発表者：15者(17技術)

※詳細は、本文資料(PDF)参照

参加費：無料

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kikaku_00000087.html

4. 三浦藤沢信用金庫との連携による「建設企業経営支援セミナー」を開催します。

国土交通省関東地方整備局では、建設市場の大きな構造変化の中、厳しい経営環境に直面している地域の中小建設企業の経営に資するため、「建設企業経営支援セミナー」を三浦藤沢信用金庫、一般財団法人建設業振興基金との共催により、下記のとおり開催いたします。

実施日時：平成25年1月29日(火) 13時00分～17時00分

場所：神奈川中小企業センタービル13階 第2会議室

対象：建設企業の経営に携わる方

その他：入場無料(定員50名)※聴講希望者は事前に申し込みが必要

主催：三浦藤沢信用金庫

共催：国土交通省関東地方整備局、一般財団法人 建設業振興基金

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/park_00000051.html

◆◆国土交通本省の動き◆◆

1. 新たな「国土交通省技術基本計画」の策定について

このたび国土交通省は、今後5年間を計画期間とする新たな「国土交通省技術基本計画」を策定いたしました。

同計画は、国土交通省の技術政策の基本方針を明示し、それを踏まえ、今後取り組むべき技術研究開発や技術の効果的な活用方策、重点プロジェクトの推進、国土交通技術の国際展開、技術政策を支える人材の育成及び技術に対する社会の信頼の確保等の取組を示すものです。

策定にあたっては、社会資本整備審議会・交通政策審議会技術部会（部会長：家田 仁 東京大学大学院教授）において、審議を行いました。

新たな計画のポイントは以下のとおりです（詳細は別添参照）。

（1）計画の目的

政府の科学技術基本計画や日本再生戦略、社会資本整備重点計画等の関連計画を踏まえ、国土交通行政における事業・施策のより一層の効果・効率の向上を実現し、国土交通技術が国内外において広く社会に貢献すること。

（2）計画期間

平成24年度から平成28年度

（3）主な内容

1. 技術政策の基本方針の明示

計画の対象を、従来の技術研究開発を主眼としたものから、技術政策全般に拡大し、国土交通行政における技術政策の基本方針を明示する。

2. 技術研究開発の推進及び技術の効果的な活用

国土交通行政における政策課題を解決するために、事業・施策と一体となり実施する技術研究開発の実施方針及び今後取り組むべき技術研究開発を示すとともに、技術研究開発の推進施策として、産学官の適切な役割分担の下で産学による技術研究開発を促進する方策等を示す。また、技術の効果的な活用の方策を示す。

3. 重点プロジェクトの推進

技術研究開発の推進において、特に優先度の高い政策課題の解決に向け、分野横断的な一連の取組を重点プロジェクトとして位置付け、重点的に推進する。

4. 国土交通技術の国際展開、技術政策を支える人材の育成及び社会の信頼の確保

国土交通技術の国際展開、技術政策を支える人材の育成、技術に対する社会の信頼の確保について、取組方針を示す。

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000209.html

2. まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業の案件募集について

国土交通省では、震災・原発事故以降のエネルギー制約等の新たな課題を踏まえ、持続可能で活力ある国土・地域づくりに向けて、まち・住まい・交通の一体的な創蓄省エネルギー化を推進するため、都市規模、地域特性等に応じたモデル構築を図っていくこととしています。このたび、地方公共団体、民間事業者等による先導的な構想策定を支援するため、以下のとおり案件募集を行うことと致しましたのでお知らせします。

【募集対象】

将来的にまち・住まい・交通の一体的な創蓄省エネルギー化に向けた事業実施を目指す地方公共団体、民間事業者等から、幅広く企画提案(将来像、目標、取組方針等)を募集します。

【募集期間】

平成 24 年 12 月 5 日(水)～12 月 28 日(金)

【選定方法・支援内容】

ご応募いただいた企画提案については、有識者等による審査を経て、優れた企画提案と評価されたものを「モデル地域」として選定します。選定されたモデル地域については、有識者及び本省関係部局並びに本省が委託する外部専門機関により、現地調査、課題の抽出及び解決方策の検討を行うとともに、提案主体への助言を行い、まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化に向けた構想策定の支援を行います。策定された構想のうち、特に先導性の高いものについては、「モデル構想」として選定し、その成果を広く周知致します。

【公募要領、公募申請書・提案書等の様式】

公募要領等につきましては、下記に掲載しております(株式会社日本総合研究所HP)。

<http://www.jri.co.jp/company/release/2012/121205/>

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000076.html

3. 平成 24 年度地域と連携した川づくりに係る計画の登録等について

国土交通省は、「かわまちづくり」計画、河川防災ステーション整備計画について登録等を行いますのでお知らせします。

国土交通省水管理・国土保全局では、地域の個性やニーズに対応した河川事業の一層の展開を図るため、地域との連携によりハードとソフトを一体的に整備する計画であり、その実現に向けて市区町村の役割が大きい計画について登録・承認及びその変更を行っています。

平成 24 年 1 2 月 1 7 日付けで登録・承認・変更される計画の概要については別紙の通りです。

詳しくは、国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_000580.html

4. 『地域除雪活動☆実践ガイドブック（暫定版）』の公表

近年、過疎化や高齢化の進展等により地域の雪かきの担い手が不足する中、平成22、23年度は2年連続の大雪となり、屋根の雪下ろし等除雪作業中に多くの事故が発生しました。

この状況にかんがみ、昨年度および本年度には豪雪地帯対策特別措置法、豪雪地帯対策基本計画がそれぞれ改正され、「地域における除排雪の体制の整備」に係る規定等が追加されたところです。

国土交通省では、今年度「雪国の安全安心な暮らし確保のための克雪体制推進調査」を行っておりますが、地域における除排雪の体制の整備を促進するため、改正された豪雪法および基本計画の内容を踏まえながら、調査の中間とりまとめとして、町内会や自主防災会のリーダー向けに「地域除雪活動実践ガイドブック

【町内会・自主防災会向け】（暫定版）」を作成しましたのでお知らせします。

詳しくは、国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kokudoseisaku04_hh_000045.html

5. 「半島のじかん2013 in TOKYO」を開催します。

国土交通省では、三方を海に囲まれ幹線交通体系から離れている等の条件不利性に鑑み、半島振興法に基づき全国23の半島振興対策実施地域（以下「半島地域」という。）を指定しています。

これらの半島地域では、豊かな農林水産資源や独特の自然景観・文化等、半島ならではの地域資源を活かした地域の内発的な取組が行われています。そこで、こうした地域活性化の活動に関わる地域住民やNPO、地方自治体の行政関係者などが一堂に会して、地域づくりの知見や課題を共有し、半島地域の自立的発展につなげることを目的に「半島のじかん2013 in TOKYO」を開催します。

プログラムは、都市部より先行して過疎化や高齢化といった問題に直面している半島地域と都市との「対話」をテーマに、各地域での取組の成果報告やワークショップ等を行う予定です。

1 開催日 平成25年2月2日（土）～3日（日）

2 開催場所 3331 Arts CYD（サンサンサンイチ アーツ チヨダ）

東京都千代田区外神田6丁目11-14（旧練成中学校校舎を活用したアートスペース）

3 主催 国土交通省国土政策局

4 開催内容

・キーノートスピーチ（澁澤寿一（NPO法人共存の森ネットワーク副理事長））

・各地域の取組の成果報告

・セッション（半島地域と都市との「対話」をテーマとしたワークショップ等）

コーディネーター：中山幹生（東京農業大学農山村支援センター）、

鈴木輝隆（江戸川大学教授）、

玉沖仁美（株式会社紡代表取締役） ほか

※入場は無料です。ただし、セッションプログラムは座席の数に限りがありますので、

ホームページより事前にお申し込みください（<http://hanto.jp/>）。

※プログラム詳細につきましては、別紙をご覧ください。

詳しくは、国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kokudoseisaku04_hh_000047.html

◆◆地域の動き◆◆

うしぶせがわ

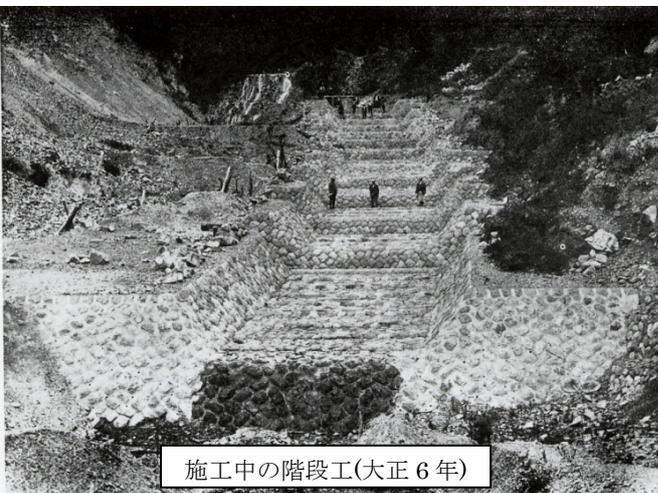
牛伏川階段工が重要文化財に指定されました

長野県建設部砂防課

長野県の中部に位置する松本市、その東部の鉢伏山はちぶせやまの麓に厄除けで有名な牛伏寺ごふくじがあります。毎年成人の日の厄除縁日大祭には県内から多くの参拝者があるなど地元で親しまれています。



山の荒廃と積苗工の施工状況(明治44年)



施工中の階段工(大正6年)



市民見学会の様子

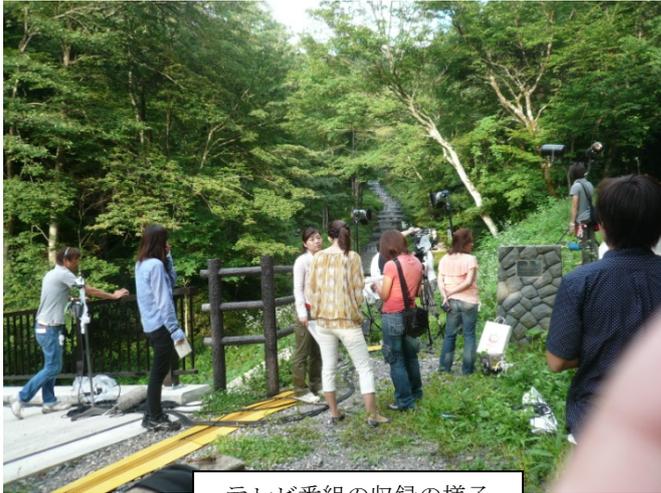
この牛伏寺ごふくじの南を流れる牛伏川うしぶせがわの流域は、明治時代初期は裸地となっており、そこから生産される土砂は下流の新潟港で舟運に支障を来す問題を引き起こしていました。このため、明治政府は明治18年から砂防事業に着手し石積み堰堤や積苗工などの山腹工を施工しました。明治30年以降は長野県が工事を引継ぎ大正7年に完了しました。

県が施工した施設のうち、大正5～7年度に施工された石造の流路工は、延長141mの流路に19基の床固(段差)を配し、全体が階段状を呈しています。

設計は、長野県内務部土木課が行い、内務省池田圓男(※)氏が指導にあたりました。階段状の形状は、フランスアルプスの水路を参考として、池田氏が提案したものであることから、別名「フランス式階段工」とも呼ばれています。周辺の地形に応じて選択された独特な階段状の形式を、熟練した石積技術を用いて実現しており、技術的に高い評価を受け、この高度な技術と歴史的価値が評価され、「牛伏川本流水路(牛伏川階段工)」として平成24年7月9日に国の重要文化財に指定されました。

県管理の砂防施設として全国初の指定で、砂防施設としては富山県の「白岩砂防堰堤」に続く全国2例目です。

現在は、地域のボランティアの皆様



テレビ番組の収録の様子

の活動で草刈りや清掃活動が行われており、夏には、地元の小中学生が遠足に訪れたり、優れた景観を求めてテレビ番組の収録が行われるなど、保存と利用の両立を果たしています。

牛伏川階段工が重要文化財に指定されたことで、現地を訪れる観光客が増加し、住民の皆様に関心が高まっていることから、重要文化財指定を記念して、先人の技術に学び、優れた景観や財産の存在を広く周知することを目的に、牛伏川の「魅力」、

「歴史」を知り、これからの「活用」について考えるシンポジウムを去る 11 月 12 日に開催しました。

シンポジウムに先立ち、午前中に現地において関係者による記念碑除幕式を執り行いました。前日からの雨が心配されましたが、当日は穏やかに晴れ、紅葉が映える中での除幕式となりました。

記念碑は、(社)全国治水砂防協会と長野県治水砂防協会から助成をいただき建立したもので、牛伏川階段工で使われた積み石と同系の御嶽黒御影石を用い、題字「重要文化財 牛伏川階段工」は池田圓男氏の御令孫池田靖様に御揮毫いただきました。



記念碑除幕式の様子

除幕式には池田靖様の御子息池田敦様と御令孫の荻野弘子様御夫妻、(社)全国治水砂防協会から大久保駿相談役、原義文常任参与に御出席いただき、長野県治水砂防協会から佐々木定男会長（佐久穂町長）の出席のもと、総勢 30 名を超える方により除幕を行いました。

午後からのシンポジウムは、松本市の M ウイングにおいて 360 名を超える一般参加者のもと開催しました。

また国土交通省の南哲行砂防部長を始めとして多くのご来賓の皆様にもお越しいただきました。

まず、牛伏川階段工を設計及び施工するに当たり、その指導に御尽力いただいた池田圓男氏への感謝の気持ちを伝えるために、御令孫の荻野弘子様へ阿部知事より記念品の贈呈を行いました。



来賓挨拶（国土交通省南哲行砂防部長）

続く対談は、8月に現地を訪問された語り部の平野啓子氏と、近代遺産の文化財指定に携わっておられる文化庁の北河大次郎文化財調査官により、牛伏川階段工の魅力について語り合っていました。平野氏は、現場で「この風景は文化だと思った」との印象を語られ、北河氏からは、今後の活用について長期的な観点で進めていくことが大事との助言をいただきました。



対談で語られる平野啓子氏

基調講演では、信州大学の笹本正治副学長から「牛伏川階段工をめぐって～ふるさとの文化財を知って災害に備える～」と題し、御講演をいただき、続くパネルディスカッションでは、コーディネーターの笹本副学長から「(防災は)日常的に災害をケアすることが大事で、そのためにはきちんと施設が維持されていることが必要であるので、災害を防ぐための縁の下の力持ちという気持ちを行政も地域の方も持ってもらいたい」との意見について、南砂防部長から「小学校5年社会の授業で地域の災害を教えるようになったが、学校で教える人がいないという現状がある」と問題提起をいただきました。これに対して、地元の子ども会育成会の近藤節子会長や牛伏川で明治時代の砂防施設の発掘や草刈りに御尽力いただいている牛伏鉢伏友の会の加藤輝和代表から日頃の活動を御紹介いただき、長野県建設部の北村勉部長から、県内の歴史的砂防施設の維持管理事例を紹介しました。



子ども会育成会による野外活動

最後に笹本副学長から「古来、普請というものは一般の人が携わることができない特殊な仕事であった。それゆえ、大地に手をつける土木の仕事に携わる人々を博士と呼び尊ばれていた」とし、先人が残した災害を防ぐ技術を伝承することの必要性を強く語られ、締めくくられました。

今回のシンポジウムでは、多方面にわたるパネリスト各位の活発な対談や討論により、参加者の多くの方に牛伏川階段工の魅力、歴史、技術を伝えることができたと思っております。牛伏川階段工は四季折々に表情を見せます。ぜひ皆様のご来訪をお待ちしております。



ボランティアによる草刈り

牛伏川階段工位置図



晩秋の牛伏川



池田靖氏の題字揮毫による記念碑

※池田 圓男 (いけだまるお) 【1871(明治4)年.8.15~1931(昭和6)年.11.8】



鳥取県生まれ。

1897(明治30)年、東京帝国大学工科大学土木工学科卒

内務省第五区(大阪)土木監督署に入り、淀川改修第一工区の新淀川改修に従事する。後に愛知県技師になったが、1907年に内務省土木局に異動し、監督、技術、直轄工事、調査課などを経て、1922(大正11)年に第一技術課長に就任。1924年に退職。

牛伏川の砂防事業では、1911(明治44)年に欧州に派遣された時に持ち帰った、フランスサニエル溪谷の図面を参考に、牛伏川階段工の設計及び施工の指導を行い、現在の階段工が完成した。